

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-134	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Illness perceptions and changes in lifestyle following a gynecological cancer diagnosis: A longitudinal analysis.                  婦人科がん診断後の病識と生活習慣の変化</p>		
<b>執筆者</b>		
van Broekhoven MECL, de Rooij BH, Pijnenborg JMA, Vos MC, Boll D, Kruitwagen RFPM, van de Poll-Franse LV, Ezendam NPM.		
<b>掲載誌</b>		
Gynecol Oncol. 2017 May;145(2):310-318. doi: 10.1016/j.ygyno.2017.02.037. Epub 2017 Mar 6.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
子宮癌、卵巣癌、治療後、病識、喫煙、飲酒		28279480
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>                  婦人科がん治療後の病識と喫煙および飲酒習慣、薬物治療の変化を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b>                  395人の婦人科がん（子宮がん 221人、卵巣がん 174人）患者を対象にして、治療後、6、12、18ヶ月後の病識と喫煙および飲酒などの生活習慣の変化を質問表により評価し、混合線形回帰分析によって、両者の関連を検討した。</p> <p><b>結果：</b>                  婦人科がんの治療後、喫煙者 15%、飲酒者 53%、過体重および肥満者 60%であった。治療前後の喫煙者割合は変化なかったが、少量喫煙者については喫煙割合が減少していた。飲酒は、少量および中等量飲酒者の減少傾向を認めた。肥満者の割合は疾患によって異なり、子宮がんでは変化を認めず、卵巣がんでは増加していた。病気に対する不安が強いほど肥満度は低く（<math>\beta=0.36</math> 95%信頼区間-0.60-0 to -0.12（BMI=1あたり）、治療に対する信頼性が低い者ほど飲酒量が多かった（<math>\beta=0.32</math> 95%信頼区間 0.09-0.56（一杯/週あたり）。</p>		